

出エジプト記7章8-29節 「反対し、だます勢力」

1A 呪術者による反対 8-13

1B 蛇に変わった杖 8-10

2B 同じ魔術 11-13

2A 血になるナイル川 14-29

1B 神々へのさばき

2B 血を流す神 14-19

3B 呪法師たちの秘術 20-24

本文

出エジプト記7章を開いてください、私たちは今朝、7章8節から最後、29節までを一節ずつ見ていきます。前回、モーセとアロンがついに、主の命じられたことに、心から従う決断をしたところを読みました。「⁶そこでモーセとアロンはそのように行った。主が彼らに命じられたとおりに行った。」とあります。そして、これからファラオの前に出て行きます。

ここから私たちは見るのは、イスラエルの民の、大いなるエジプト脱出、出エジプトの始まりです。十の災いがエジプトに下り、ファラオが強いられてイスラエルの民を追い出す、その始まりです。モーセとアロンは、その初めの時に、強い霊の抵抗勢力に遭います。それが、ファラオの側近である、呪文師である知者たちです。モーセとアロンには、神の御霊がおられます。そして、ファラオという、国の王に対面するのですが、その横には、二人の働きを阻止しようとする霊力者たちがいます。

今、政治の話題で「抵抗勢力」なんていう言葉が使われますね。政治改革をしようとするれば、既得権を持っている団体や、その支援を受けている政治家が、何とかしてその改革を阻もうとすることがあります。政治だけでなく、会社や、マンションの管理組合でさえ、組織の中で改革をしようとするれば、抵抗勢力が現れますね。その抵抗は内部で起こります。

同じように、神の御国の福音において、霊的にも抵抗勢力が出てきます。主のみこころを行えば、神の支配が悪魔の領域に立ち入るからです。イエスが、「マタ11:12 バプテスマのヨハネの日から今に至るまで、天の御国は激しく攻められています。そして、激しく攻める者たちがそれを奪い取っています。」と語られました。

1A 呪術者による反対 8-13

1B 蛇に変わった杖 8-10

⁸ また主はモーセとアロンに言われた。⁹「ファラオがあなたがたに『おまえたちの不思議を行え』と

言ったら、あなたはアロンに『その杖を取って、ファラオの前に投げよ』と言え。それは蛇になる。」

ファラオが命じています。神の名によってきている限りは、不思議を示しなさいということです。神から来た使者であることのしるしです。そして、主は、アロンの持っている杖を蛇にすると約束しておられます。蛇は、エジプトで、賢く、大きな魔力を持つ存在としてみなされました。ファラオの力を象徴していました。ですから、杖を蛇にするというのは、ファラオに対する直接の、挑戦です。

¹⁰ モーセとアロンはファラオのところに行き、主が命じられたとおりに行った。アロンは自分の杖をファラオとその家臣たちの前に投げた。すると、それは蛇になった。

先週お話したように、モーセとアロンのすることは、「主が命じられたとおりに行」うということですよ。これが、主のしもべの姿であり、また御霊に導かれている人の姿です。自分の思い、自分の力は退けて、主の言われたことだけを行います。そうすれば、主ご自身が知恵と力をもって、ご自身を証しされます。

2B 同じ魔術 11-13

¹¹ そこで、ファラオも知恵のある者と呪術者を呼び寄せた。これらエジプトの呪法師たちもまた、彼らの秘術を使って同じことをした。

当時、古代世界の超大国がエジプトです。その王、ファラオが、「知恵のある者と呪術者を呼び寄せた」とあります。なぜ、呪術というような迷信めいたものに、超大国の王の側近として、知者として寄り添っていたのでしょうか？

私たちは、世界というものが目に見えるものでしかできていないという考えが、歴史の中で入り込んできました。けれども、実際は、霊の世界と目に見える世界は一体化しています。ファラオの横についている神官たちは、言うならば、当時の最先端の知性とテクノロジーを兼ね備えている存在でした。彼らは呪術をするのと同時にエリートであり、歴史、医学、天文学、数学、法知識を兼ね備えていました。

今現代でも、私たちは、政治や経済の指導者たちにとって、宗教や、神に頼ることが重要視されていることが、見逃されがちです。けれども、経営者や政治家には、宗教とか信仰に対して強い興味を持っています。なぜなら、自分がリーダーシップを取って動いていると、孤独であり、自分の力ではどうにもできない限界を知るからです。知的な人がなぜ、迷信めいたことを信じるのか？と思うかもしれませんが、逆に、自分の知性や権力の限界を、現場では目の当たりにするのです。

もちろん、その頼りにする神が、正しい神、まことの神であるかが大事になってきますね。それ

が、まさに、今、ファラオの前で展開している熾烈な戦いです。呪術は、エジプトには神聖な力があるのだということを示す、外交また広報の手段でした。神官たちは、権威の杖というものを持っていて、上部に伝説の動物があり、下の部分が二股に分かれていました。その杖が蛇に変わるというのが、神の力が目に見えて現れたという意味合いを持ちます。

モーセとアロンが、エジプトの王の前で杖を蛇にしました。しかし、彼らが同じ魔法を行いました。こうやって、モーセとアロンのヘブル人の神の力の現れを、自分たちエジプトの国の力の現れで打ち消したのです。いわば、イスラエルと共におられる神の国と、エジプトという世の国、悪魔の支配下のある国の、ガチンコ勝負になっています。

ここでファラオが心を頑なにしますが、同じことができるということで、神の力が、自分たちの信じていることと変わらない。だったら、あなたがたを特別視したり、信じたりする必要はないと思いませんね。これが、日本における霊の戦いの本質です。

キリストが救い主であると言われても、キリスト以外に救いをもたらすものは、いくらでもあると反論できてしまいます。しかし、日本を出れば、当たり前が当たり前ではないのです。例えば、私たちが宣教地にいた時、親しい友人は腎臓病で天に召されました。日本であれば、透析で十分に健康を維持できる程度のものでした。しかし、透析をすると、かえって症状が悪くなるという、医療技術の低さがあるのです。だから、福音書の世界にあるように、イエスのところに来て、癒されて、主ご自身も、「あなたの信仰が、あなたを救った」と言われた時、その「救う」のギリシア語は、癒すと同じになっているのです。日本では、手厚い生活保護であるとか、セイフティーネットがしっかりしていますし、就職率も高いですし、また教育も抜群の識字率ですし、当たり前になっていることが、世界の多くの地域では当たり前でないのです。

そういった国々では、信仰に豊かです。確かに、この方が救い主であると知ることのできる、機会が多くあります。ところが日本には少ないのです。他に代用できるものが多いからです。だから、イエスが唯一の主、救い主であると言っても、「キリストさんは、別に結構です。」と断ったり、あるいは、「キリストさんは信じておこう。でも、神仏があるから、ちょっと保険として加えておこう。」というぐらいにしか、思えないのです。

そして、この力ですが、エジプトの呪法師がしているのが、何か催眠術であるとか、いろいろな合理的な説明があります。けれども、聖書には明らかに、悪魔や悪霊どもが、しるしや不思議をすることを教えています。終わりの日に現れる不法の者について、パウロがこう言いました。「Ⅱテサ 2:9-10 不法の者は、サタン働きによって到来し、あらゆる力、偽りのしるしと不思議、10 また、あらゆる悪の欺きをもって、滅びる者たちに臨みます。」だから、しるしがあるからといって、それを信じてはいけないという戒めが、聖書にはあります。「Ⅰヨハ 4:1 愛する者たち、霊をすべて信じ

てはいけません。偽預言者がたくさん世に出て来たので、その霊が神からのものかどうか、吟味しなさい。」神からのものかどうか、吟味する必要があります。

¹² 彼らがそれぞれ自分の杖を投げると、それは蛇になった。しかし、アロンの杖は彼らの杖を呑み込んだ。

ここが大事です。主は、この対決で、ご自分が優れていることを、彼らの杖を呑みこむようにさせたことで、お示しになりました。このようなことを、主は行われます。つまり、世において、力あるもの、知恵あるもの、いのちあるものと呼ばれている、いろいろなものがあります。多神教の世界では、神と呼ばれます。日本では、しばしば、何かに秀でて優れていると、その人のことを神と呼びますね、それです。

主は、そのこと自体を否定されません。主は、すでにあるものについては、すべてが神から来ているのですから、否定されません。たとえ、それが異教であっても、そこには、神の示されたことが残されています。仏教がキリスト教と似た部分があるという人が、バイブルカフェなどで、おっしゃってくださる未信者の方々がいます。全くその通りです。

しかし、主は、そのようなものの中にご自身を現し、なおのこと、これらのことよりも優れていることを示して、世には、まことの神はご自身しかいないのだと証しされるのです。例えば、みなさんがご自分の職場で、他の人たちと同じように仕事します。けれども、その現場で、キリスト者でなかったならば絶対にしないことはしない、あるいはキリスト者でなかったならば、だれもがしていないことをするような場面が出てきます。そういったことを主は用いられ、それで、何かが違うと周囲の人々が気づくようにされるのです。

¹³ それでもファラオの心は頑なになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。

このことを主が何度となく、モーセに前もって伝えられていたとおりのことが起こりました。彼が言うことを聞かないことを、モーセは覚悟を持って受け入れたので、主の命令に完全に従えるようになったのです。

ここで「それでも」という言葉が大事です。多くの人が、聖書のこと、キリストのことは、知的に受け入れられないとします。そして、聖書に出て来る、不思議なこと、奇跡は非合理的だと言います。しかし、私が、神の奇跡よりも、はるかに不思議に思うのは、「人の頑なな心」です。目で見えなければ信じないという人の大半は、目で見えても信じません！目で見えないと信じないというのは、言い訳、弁解で、はっきり見えても、それでも心を頑なにします。自分のことは自分で守るという、

心の高ぶりこそが原因、元凶なのです。

2A 血になるナイル川 14-29

1B 神々へのさばき

ここまで、主は寛容をもって、ファラオに臨まれました。これからも、その寛容さは続きますが、しかし、ご自分の圧倒的な力と栄光を示すために、これら呪術者らが真似できないような、高い次元で、ご自分の力を示されます。

それで、九つの災いがエジプトに下ります。最後の十番目の災いで、ファラオはイスラエルの子らを強いて出させます。その九つの災いが、すべて、エジプトでは神々とみなされているものです。豊かさや偉大さ、力あるもの、麗しいものについては、それらがまことの天地創造の神から来たものとみなすのではなく、それ自体が神々であるとみなします。それで、ナイル川、そこに棲むかえる、牛などの家畜、天また地そのもの、そしてファラオ自身とその息子に至るまで、すべて神々です。主が後にモーセに、「12:12 その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人から家畜に至るまで、エジプトの地のすべての長子を打ち、また、エジプトのすべての神々にさばきを下す。」と言われます。

そして、その九つの災いも、初めの三つ、中間の三つ、最後の三つで区分できます。三周期で、三つの災いが下ると言ってもよいでしょう。なぜ、三周期だと言えるかといいますと、ファラオが朝に、ナイル川の水辺に出てくるのです。エジプトの神々に拝みに来る行為です。それが第一の災い、第四の災い、第七の災いの始まりにあります。そしてそれぞれの周期で最後の災いは、第三、第六、そして第九の災いですが、警告もなく下ります。このようにして、エジプトの神々に裁きを下すことによって、圧倒的な栄光と力で、ファラオに、わたしが神であると神が示されるのです。

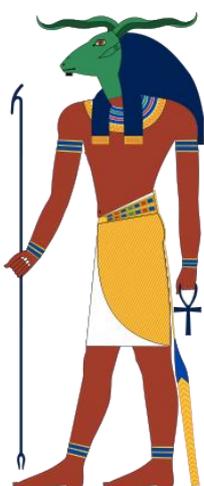
2B 血を流す神 14-19

¹⁴ 主はモーセに言われた。「ファラオの心は硬く、民を去らせることを拒んでいる。¹⁵ あなたは朝、ファラオのところへ行け。見よ、彼は水辺に出て来る。あなたはナイル川の岸に立って、彼を迎えよ。そして、蛇に変わったその杖を手に取り、¹⁶ 彼に言え。『ヘブル人の神、主が私をあなたに遣わして言われました。わたしの民を去らせ、彼らが荒野でわたしに仕えるようにせよ、と。しかし、ご覧ください。あなたは今までお聞きになりませんでした。』

「今までお聞きになりませんでした」と、モーセは告げて、これからの災いが正しい報いであることを強調しています。

¹⁷ 主はこう言われます。あなたは、次のことによって、わたしが主であることを知る、と。ご覧ください。私は手に持っている杖でナイル川の水を打ちます。すると、水は血に変わり、¹⁸ ナイル川の魚は死に、ナイル川は臭くなります。それで、エジプト人はナイル川の水を飲むのに耐えられなくなり

ます。』」

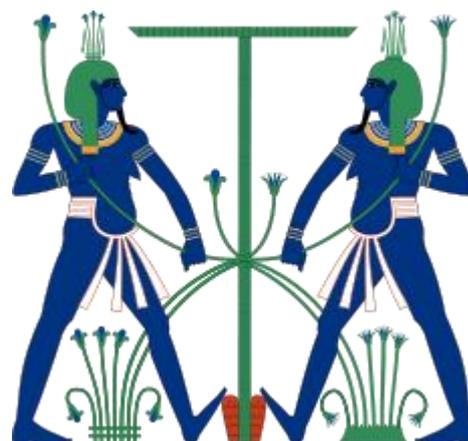


今、言いましたように、朝に水辺に出て来るのは、ファラオが礼拝している行為です。「我々は」、このようなナイル川があるのだ」という誇りを、そこで抱きます。ナイル川こそ、エジプトの命と言えます。エジプトは半砂漠気候の地域です。ナイル川周辺から少し離れると、そこは砂漠です。ナイル川は、その農業に大きな貢献をしています。その洪水による川の氾濫によって周囲の地域に肥沃な土が敷かれます。人々はそれでナイル川をほめたたえ、事実、ナイルを賛美する歌も見つかっています。そしてナイル川によって暦を作り、彼らの生活はナイルを中心に回っていたのです。

それでナイルが神々となっています。クニムという、羊の頭をした神はナイルの氾濫を司る神でありました。ハピという神は、ナイル川そのものの化身です。したがってナイルを打ち、血に変えるのは、まさに神が血を流して死ぬというようなインパクトを持っていたのです。

¹⁹ 主はモーセに言われた。「アロンに言え。『あなたの杖を取り、手をエジプトの水の上、その川、水路、池、すべての貯水池の上に伸ばしなさい。そうすれば、それらは血となり、エジプト全土で木の器や石の器にも血があるようになる。』」

ナイル川によって得ている便益を絶ちます。ナイル川から発する、あらゆる河川、水路、貯水池も血になります。それで生活用水や飲料水も絶たれることになります。



3B 呪法師たちの秘術 20-24

²⁰ モーセとアロンは主が命じられたとおりに行った。モーセはファラオとその家臣たちの目の前で杖を上げ、ナイル川の水を打った。すると、ナイル川の水はすべて血に変わった。²¹ ナイル川の魚は死に、ナイル川は臭くなり、エジプト人はナイル川の水を飲めなくなった。エジプト全土にわたって血があった。

ファラオと家臣たちの目の前で行っています。そして、エジプトの民が飲み水を失います。

²² しかし、エジプトの呪法師たちも彼らの秘術を使って同じことをした。それで、ファラオの心は頑なになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。

ここです、呪法師たちが同じような秘術を行いました。カウンターです。けれども、当然、規模は雲泥の差です。わずかに、目の前にある水をちょっと血に変えただけです。彼らの秘術にある力と、主なる神の偉大な力は、天が地より高いように、比べものになりません。ところが、ただ「同じことをしているではないか」として、それをもってファラオは心を頑なにしました。

このことが、心頑なな者に数多く起こります。例えば、圧倒的な良い行いが、キリスト教の働きによって残されています。病院、教育、人権、また経済でさえ、あまりにも明らかな、良い行いの実があります。それにも拘らず、わずかにあるキリスト教会で起こった悪いことを取り上げて、全否定してくるのです。

例えば、「宗教が戦争を起こしているのだ」という言葉が日本では、しばしばいわれます。興味深いのは、「戦争百科事典」というものがあり、人間の歴史の戦争のうち、宗教的なものがどれだけあるかを記した統計があります。1763 の記録されている戦争で、宗教的なものは 123 です。全体の 6.98% です。その中でイスラム教が 66 で、それ以外が 57 です。ですから 3.23% です。先の二つの世界大戦も、宗教とは無関係に起こっています。¹

ですから、ファラオが、自分の呪術者がわずかに水を血に変えたのを見て、イスラエルの神のしるしと不思議を全否定してみせました。

²³ ファラオは身を翻して自分の家に入り、このことにも心を向けなかった。²⁴ 全エジプトは飲み水を求めて、ナイル川の周辺を掘った。ナイル川の水が飲めなかったからである。

ファラオは、民が苦しんでいるのを見て、意にも介しませんでした。それで次の災いは、ファラオの家の中、その台所や、寝室にまで及ぶ災いになります。

²⁵ 主がナイル川を打たれてから七日が満ちた。

七という数字は完全数、神の数です。ナイル川が打たれたのは、まさしくこの神であるということです。

こうして、初めの災いを見ましたが、この呪法師について、最後に少し話します。新約聖書に、だれであるかが名指しで出てきます。「Ⅱテモ 3:9 たぶらかしている者たちは、ヤンネとヤンブレがモーセに逆らったように、真理に逆らっており、知性の腐った、信仰の失格者です。9 しかし、彼らがこれ以上先に進むことはありません。彼らの愚かさは、あの二人の場合のように、すべての人にはっきり分かるからです。」ヤンネとヤンブレです。この二人が、ファラオがモーセに逆らわせる

¹ <https://harvesttime.tv/assets/PDF/MonthlyHarvestTime1411.pdf>

ようにさせました。

私たちが忘れてはいけないのは、モーセの神は、私たちキリストの神だということです。キリストは昔も今も変わりません。目に見えないところで、霊の勢力があり、キリストの真理に対して対抗します。今、引用したパウロのテモテに対する言葉は、教会の中に出てきた愚かな者たち、偽教師たちに対する言葉です。教会に対しても、悪霊どもは何とかして真理に逆らわせようとしています。

しかし、それは想定済みで、福音の力はこれらの力を圧倒しています。「コロ 2:13-15 背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、14 私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。15 そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。」ゆえに、ひるむことなく、しっかりと共に真理のうちに立ち、戦うのです。「ピリ 1:27b-28 あなたがたは霊を一つにして堅く立ち、福音の信仰のために心を一つにしてともに戦っていて、28 どんなことがあっても、反対者たちに脅かされることはない、と。そのことは、彼らにとっては滅びのしるし、あなたがたにとっては救いのしるしです。それは神によることです。」